

備後教区報

第 142 号

CONTENTS

- ◇大遠忌ニュースフラッシュ
- ◇備後学僧逸伝⑥
- ◇坊守探訪 芦田組 光秀寺
- ◇寄稿一震災支援活動リポート
- ◇NEWS&活動情報
- ◇予報・インフォメーション



▶新門さま導師による宗祖讃仰作法



大遠忌 News flash

4月から始まった親鸞聖人750回大遠忌法要も前半が終了した。全国からの参拝総数は17万人で、備後からは約3,000人が参拝した。この間行われた団体参拝の様子や、仏教婦人会世界大会、少年連盟指導者大会等の諸行事を報告する。

備後から三千三百余人が

事前に送られた参拝バッグを手に全国各地よりそれぞれの思いを胸に参拝した。

円滑に本山前で下車できるようにバスに貼られた教区名、番号を、東寺などの数か所のポイントで確認し連絡。到着すると備後教区職員の出迎えと誘導によりスムーズに記念写真、堂内への入堂を終えることが出来た。

総局挨拶、記念布教が終わると、堂内の左右より太鼓・表紙写真が響き渡り、縁儀が始まり、列衆、結衆が着座し法要が開始した。お勤めは9日から12日までが「宗祖讃仰作法」、13日から16日までが「宗祖讃仰作法(音楽法要)」である。

最後に新門さま、ご門主さまがご挨拶をされ、法要が終了した。



▲本山前。バスより下車した後、一般の歩行者の妨げにならないよう、堀の上にパネルがひかれ参拝者専用の通路に

▶宗務総合庁舎ロビーでは「てがみ」と親鸞聖人へのメッセージ」が展示されている



▲境内にテントが張られ布教が行われる

◀安穩殿(参拝センター)に各教区の広報が展示。備後のキッズサンガブレスが目立っていました

親鸞聖人750回大遠忌法要記念

第14回世界仏教婦人会大会



ナダ、アメリカなどの各開教区から約500名、日本国内では3,500名近くに参加者が本願寺に参拝。本願寺では世界中の仏教婦人たちが宗祖讃仰作法(音楽作法)のご法縁に会い、親鸞聖人のみ教えを聴聞した。

大会会場のパルスプラザでは16日、夕食交流会が行われ教区や国を超えて交流を深め、お裏方さま作詞「お名前よべば」の曲に合わせて踊りが披露された。

また翌日17日には、お裏方さま御臨席のもと「世のなか安穩なれ」をテーマに大会が行われ、大平光代さんの対談、各代表者の体験発表など盛りだくさんの内容であった。

5月15日、16日の両日、第14回世界仏教婦人会大会が親鸞聖人750回大遠忌法要勤修に合わせ、京都の地で開催された。東日本大震災の影響で渡航制限された国もあり、当初予定よりは減員となったが、ハワイ、ブラジル、カ

備後からは94名の参加者があった。杉原静子備後教区仏教婦人会連盟委員長(沼隈西組万福寺)は総連盟副会長でもあり、大会の中で挨拶をされた。

親鸞聖人750回大遠忌法要記念

少年連盟設立50周年記念大会

「少年教化指導者のつどい」

6月9日(木)、本願寺並びにホテルグランヴィア京都を会場に、少年連盟設立50周年記念大会が開催され全国より700名が参加があり、備後教区からは17名が参加した。

本山にて午後の法要に参列し、その後ホテルグランヴィア京都へ移動。式典の中で少年連盟総裁・大谷範子裏方が挨拶をされ、続いて表彰式が行われた。

記念講演では夜回り先生で知られる、水谷修花園大学客員教授が「子どもの今私たちにできること」と題して講演された。

懇親会では各教区より地酒やお土産をもちより試飲コーナーやクジ引きの景品としてPRされた。

翌日は東本願寺に参拝し、職員さんの案内のもと御影堂、阿弥陀堂、書院、能舞台や真宗視聴覚ホール等を見学し、涉成園にて昼食をとり帰路についた。



▲水谷修先生



▲備後からの参加者

Close-Up-Bingo

クローズアップ備後
Gakousu Itsuden Vol.6

鴨川組 勝願寺 第二十四世住職

勸学 足利瑞義



備後の4人目の勸学・足利瑞義は義兄弟の渡辺哲信同様に第22代大谷光瑞宗主に深い縁があり探検隊にも参加している。

しかし周囲が若い頃の探検や留学などの面白そうな体験話を聞きたがっても、自分の事を語らず、他の悪口も云わない方であった為にその詳細は闇に覆われ謎が多い。

近年、明浄寺から探検隊時の瑞義の手紙も見つかったので知られざる瑞義和上の姿に迫ってみたい。(文中敬称略)
(敬称略)文責Ⅱ教区報専門委

【足利瑞義の略歴】

明治4年¹⁸⁷¹、勝願寺の足利義山勸学の三男として生まれ、姉の甲斐和里子や甥の足利浄円等と共に父母の慈育、徳風を享けて育つ。幼名は忠丸、足利義蔵といったが光瑞から一字をもらって瑞義と名乗ったという。

明治25年¹⁸⁹²文学寮高等科卒業。

同27年¹⁸⁹⁴大学林卒業、彦根中学校長をつとめ、同29年¹⁸⁹⁶に光瑞の命でインド欧州を巡りロシア留学。

光瑞に「懐刀のような人物」と重宝がられ大谷探検隊にも参加した。

本願寺の執行5回。1度は執行長で宗務を総覧、顧問を3回。仏教大学長(後の龍谷)及び龍谷大学長、宗学院長に任じられて人材育成にあたり、三財団理事長として一派の財政に貢献、ハワイ開教総長をつとめるなど各方面にわたって要職を歴任した。

このように終始枢議に参じて宗務運営に盡瘁し、父義山と2代にわたって勸学を任じられ、大学を辞すまで長年安居総理に関与された。

昭和19年¹⁹⁴⁴8月20日、子や孫に囲繞されながら勝願寺にて示寂。

その示寂に際し光瑞や光明夫妻など大谷家の人々からも惜しまれて本山か

らは宗派葬の礼と父義山勸学以来その例を見ない喪頭の自影を下付されたといい。



▲光瑞と探検隊に深く関わった15名が記されている。左下の写真が足利瑞義。



別府の大谷公園には光瑞の顕彰碑がある



【光瑞を支えた側近の一人】

光瑞の幼少期から大谷家世話役、室内部長を務めた上原芳太郎は瑞義を次のように語る。

「日清役の平壤陥落¹⁸⁹⁴直後、光瑞殿下は鷹ヶ峰において体力鍛錬と茸狩を兼

ねて大運動会を催され、このとき義山の子息、文学寮出身の足利義蔵として参加せられたのが顔出しの始めて後年、大和の名坊・願行寺住職を特命、瑞義と改名せられた。

明治29年¹⁸⁹⁶戦勝国の欧航第一船・土佐丸にてコロンボに着くと黒衣・紫袴・金紋輪袈裟の渡辺哲信、伊藤洞月と氏の三人が船を降り、日本の青年宗教家来ると騒ぎになった。カルカタ市に至ると更に騒ぎが大きくなり、ブッダガヤ参詣後、アフガンに入ろうとする福島安正將軍が切に諫止せらるるので、エルサレムを訪ねオデッサを経てロシア首都に入る。これは十年後、日露役有らん用意と時人は殿下先見の明に舌を捲いた。帰朝費を滞在見学に振替、渡辺氏は回航の軍艦富士に、瑞義氏は鹿兒島丸に便乗した。爾後、本山の教学に従事し能吏の称あり。

明治39年¹⁹⁰⁶、日露戦争直後に在留日本人に状況報告のため林嶺信を連れて渡米。開教視察中、病を養うが桑港(サンフランシスコ)大震(4月18日)には、逸早く邦人に巡回慰問して本山の好意を大に感謝せられた。」

このように文学寮出身多士済々の中で最も早く卒業して頭角をあらわされ

た一人であり、三代の門主に歴代した宿老であった事を回顧しておられる。



▲新門様(即如)ご誕生に際し、作られた白磁象香炉1組の内1つを記念に贈呈されたという

瑞義が探検隊に関わったことを証明する資料は少ない。しかし、結果から言えば明治36年¹⁹⁰³、第一次探検中に明如遷化により新門主として帰国された光瑞を赤松連城と長崎港に出迎え、翌月4月20日には光瑞の推薦で第一次隊員と共に**東京地学協会**会員になり、5月20日には**仏跡巡拝記編纂係の主任**として携わる程の人物であった。

これは**須磨の本願寺別邸・月見山テント**にて巡拝・発掘した資料の整理や編纂をしており、探検に携わった20名あまりの人員で構成されて、**渡辺哲信**など未帰朝者も名前に含まれた。

6月25日に須磨の別邸で初めて言葉交わしたという**禿氏祐祥**は初対面の瑞義の印象を「年は若いにしても高德を以って知られた義山勸学の御曹司であり法主猊下の御覚え目出度く、教学

局の注記として巾を利かせていた人と思えないほど気軽に応接してくれた」と後年語っている。

須磨における編纂成果として、翌年1月に本願寺室内部(本多忠隆部長)から『印度撮影帳』を刊行されたが、同時期に日露戦争にむけて戦時奉公の運動から本山に**臨時部**が組織され編纂係員も大陸や各地へ移動していき、瑞義自身も臨時部所属になり2月には**軍布教員監督**に任じられている。

こうして光瑞も断続的に須磨に滞在して続けられた編纂作業は中断・終了していったものと思われる。しかし、日露戦争の際にも瑞義は従軍布教使に採用された人物をこの別邸に呼び出したりする等、巡拝記編纂係のなかで最も遅くまでここに関わった一人であるようだ。



▲探検隊で使用する箱
◀その名札(足利義蔵)

【第二次探検に随行】

明治42年¹⁹⁰⁹9月、光瑞は裏方同行でインド経由の欧州旅行に出発する。

このとき瑞義は随行長を務め、先発していた**橘瑞超**や**野村栄三郎**達と合流しているが、インドのダーズリンにて父**義山**に12月28日付で手紙をしたためているので当時の様子を伺える。

ネパールは入国禁制の為、誕生地や涅槃地には参れなかったがブッダガヤの金剛座、大塔、尼連禅河、前正覚山、伽耶山、マカダ国首都パトナ、新旧王舎城、ナールンダ大学跡、霊鷲山や鹿野苑など巡拝し、前年に英国がカニシカ王のストウパを発掘した経緯、これからカルカッタに向かうが正月は領事館で雑煮の馳走を受ける等、仏跡巡拝の状況を記している。

義山は手紙を読み「釈迦牟尼のそのふる跡をつくづくとをがみてかえる吾子ぞまたる」と歌を詠んだ。

(『義山法語』より)

ちなみにそれから半年後、義山は故郷にて亡くなられた。

喪主の瑞義が渡英中であつたため、足利浄円等が喪主代理をつとめて葬儀が執行されたようだ。



▲二楽荘内にあった武庫中学



▲二楽荘に併設された学校で光瑞は教育の理想を求めた

【ロンドン滞在と第三次出発】

インド巡拝後、欧州各国をまわってロンドンに到着。光瑞夫妻や**九条良致・武子**夫妻なども滞在したので、まるで英国に大谷家を移した感があり、瑞義は「執行長兼室内部長の如き劇務に服して、氏の瘦が目立つに至つたと随員のより報じて来た」という程の働きであつたようだ。当時のロンドンの状況は4月に光瑞が到着してから**大谷尊由**執行長が6月に渡英、宗祖大遠忌に関して打ち合わせて7月に帰国。

又、橘瑞超は**スタイン、ヘディン**に会い英国人の少年を助手に雇って第三次探検隊に明治43年¹⁹¹⁰8月14日、ロンドンから出発している。

このとき瑞義は橘の出発にベルリンまで同行するが、すぐに引き返し同月20日には光瑞の帰国に随行。

その後、**第4教団団長**、翌年5月には**武庫中学**の初代校長を務めている。



▲二楽荘本館 ▼各国の部屋



【二楽荘と若き執行】

武庫中学とは二楽荘内に併設された学校で光瑞の私費をもって経営され、全国から優れた人材を集めて教育し、教団改革とアジアに教線を広げていくことを目的としていたという。

二楽荘は六甲山麓の中腹に位置し、歩くのに三日かかると言われた広大な敷地にダージ・マハールやアクパール大帝陵墓をモデルにした壮大な本館を頂上に建て、名の由来は「海と山の双方を楽しむ」「山水を楽しむ、育英も楽しむ」の意であったという。

明治40年¹⁹⁰⁷、本願寺の須磨月見山別邸が宮内省に買い上げられた(現・須磨離宮公園)為、その代替地を探す事になったのが二楽荘の起りだが、同年5月に36歳の若さで執行(現在の総務)になっていた事を特筆したい。

更に5月25日に執行長(大谷尊重)はもう一人の執行(梅上尊融)とシベ

リア経由で英国に出発して一年以上戻らぬ渡航に出ていることを考えると、場所選定や着工前の大事な時期に国内を任された瑞義の役割は重要であっただろう。その執行は翌41年3月、二楽荘着工開始時期まで務めている。

二楽荘本館内は回廊式書庫やアラビア・イギリス・印度・支那・エジプトをモチーフにした部屋など光瑞の知的関心世界を表現し、自ら建築に技手・職工として鋭意従事し、西本願寺の枢機本部が六甲山麓に移動したが如く、ここから次々と指令を出したという。

そして翌42年9月20日竣工(以降も付属建物が建てられた)を見届けた光瑞は、9月24日に瑞義を随行長に神戸港を出港してインドに向かった。

しかし、二楽荘に深く瑞義が携わっていたという話は子孫に伝わるが、どのように関係したかについては殆んど分らないのが実情である。

須磨別邸の縁も多く、編纂係主任を務めるほど光瑞の関心や事情に通じていた瑞義の関わりは少なくないであろうと推測するが、それを証明する資料は残っていない。残念なことである。



沢村英治

【大の野球好き】

時間があれば、いつも平安高校や龍谷大学の野球部をたびたび見学していたというほどの野球好きであった。

後に沢村賞で有名になる沢村栄治に注目して、野球部に入部させるために平安高校入学を瑞義が働きかけたという。その際、沢村と交渉してほとんど平安入学が決まる状況まで話は進んだが、沢村父との折り合いが合わず直前に京都商業学校にとられてしまい、後々まで残念がったという事である。

【和上は尊い人であった】

常に小欲知足で公平無私、金銭上には淡泊で私利私欲の言動もなかった。

温和で人情味があり何人に対しても親切であるが、事務には明敏で練達之士であったという。晩年、一派の重鎮でありながら、ひたすら大谷家の繁昌と宗門の隆盛を願って、騒動の渦中に身を投じることが多かったようだ。

龍大教授による浄土教批判問題の対策委員長もつとめ、戦時下の混乱の多い時に「この人ならば信用ができる」と人格の点で最適任者であると二度目の龍谷大学長に就任、学内の空気を一新して同学の危機を救った。

又、ホノルル開教区に混乱あれば老骨に鞭打ってハワイに行き開教総長をつとめた。先代開教総長の今村恵明と親戚であり、開教に貢献して当地で慕われている足利浄円や加藤哲勝らと縁が深い事を買われたようだ。

尚、「カモメの水兵さん」は、このとき出発を見送った姪の武内敏子により作詞、後に大ヒットした。

しかし「儂はこうして一生の大半を本山勤めするようなことになって、故郷の御門徒には父と儂と二代も留守をしてほんとにすまんことになってしまった。」御本山がこうして立派に経営されるのも、地方でコツコツ法務をつ

とめる田舎住職たちのお陰である」と述懐し、自身も故郷の寺に帰ることを宿望していたという。

それらは義山和上の家訓を守られたからであるとも聞くが他に迷惑をかけることを嫌い、世襲制度にも反対、要職に就くことも好きではなかった。

自分というものが無いのもその為であるが、瑞義和上は偉い人というよりも「尊い人であった」と語られるところに、その人柄が偲ばれるようだ。

後の瑞義
備で学山
同勸学山
是



【是山恵寛と瑞義】

あるとき瑞義が宗学の不振を憂慮して恵寛に所感を述べて高教を仰ぐと、「今日初めて故義山和上のご子息に邂逅した気持ちにして、こんなに嬉しいことはない」と涙をもつて語られたという。それは瑞義が事務にのみ携わり宗学方面から遠ざかって暮らしている事は父義山の志から背いていると常々思っていた所、真剣に申し述べた事が和上を動かした「宗学振興の努力は義山和上への追考である」と励まされた。それから和上から安居の副講をする

ように勧められ、再三辞退するものの「俺が援助するから是非とめよ」と強く推し、慈父が愛子を導くように日々親切な指導や注意を行った。

役目を終えた後で「君が黄袈裟麻衣で向かう貌はどことなく故義山和上の面影を偲ばせる。あの貌が見たいと年来望んでいたが、その望みがかなって嬉しい」と喜んだという。

【衆議院議員に推された】

光瑞や渡辺哲信が本願寺を辞職した頃と同時期であろうか？ 瑞義も一時本願寺を干された事があるようだ。

そのために衆議院議員に出馬を周囲から推されて、三原の善教寺を会場にして瑞義本人や推薦者、渡辺哲信などの関係者が集まり、会議が行われたという話も伝わっている。

【真宗学研究所を設立】

大正13年¹⁹²⁴、終生の事業として私財をなげうって真宗学研究所を設立。ここで中井玄道、加藤哲勝、梅原貞隆、足利浄円らと『同朋(自照)』の編集出版も行なった。編集は木辺派の光沢寺で行われ、同朋舎の印刷所が光沢寺から移転してからも瑞義や桐溪順忍ら

はここに住んでいたという。

ちなみに足利義山の法語や歌を集めた『義山法語』の編集著者は甲斐和里子として一般に知られているが、その事業も義山17回忌に企画・編集されたのが始まりで、瑞義と真宗学研究所の名前で出されたものが最初版である。



▲瑞義は親鸞聖人の筆法をまねて、ご本典を書写された(勝願寺蔵)

【大谷の勸学墓】

西大谷墓地の奥、能化・勸学谷に足利義山や瑞義の墓がある。

同じ区画には勸学墓が7基あり、それぞれ慧雲(芸轍の祖)、大瀛(三業惑乱で活躍)、僧叡(石泉)、七里恒順(博多万行寺)、東陽円月(滅罪論で義山と法論)、是山恵寛など縁の深い和上方が並んでいるのが感慨深い。

あるとき義山が「わしが死んだらご本山は大谷に墓所を下さるだろうが、先没された和上方の建碑には資金無うて、係の者は随分苦労したものだ。建

(取材協力) 鴨川組勝願寺、芦田組明浄寺、御調西組善教寺



▲義山と瑞義の勸学墓

前としては弟子達の據金によるのぢやが、そうそう浄財が集まらぬ。そこで遺族や住職された寺の檀家の負担にまでなるそう。わしの場合とりわけ貧乏じゃし、勝願寺も貧乏寺で門徒衆にも迷惑をかけられぬ」と慨嘆されて、傍にあった瑞義が「『真宗百題啓蒙』出版を予定して長年貯めた」あのお金を出されたら本のかは私がなんとかしますから心配しなさんな」と言ったところ「金に縁のない息子の言うことは信用できん」と笑われたとか。

これは瑞義が安居の長をつとめ、その発会式(開幡)の式辞中に述べた語で、ご門主も笑っておられたということである。瑞義の勸学墓は生前かねての希望により新しく一基を設けず、父義山の墓の側面に名を彫られた。

無用のついでを厭い、人の迷惑を憂い、己を虚しゅうして陰にあつて満足する性格そのまま「生涯飾る所なく法爾自然に生きた父を偲ばせる・息子娘自慢の墓である」と語られている。

芦田組 光秀寺
たけだ ふみえ
武田 史江 坊守

坊守探訪

VOL.32

主任児童委員やボランティアで 広がる地域のつながり

今回お訪ねしたのは、芦田組・光秀寺の武田史江坊守さんです。光秀寺さんは菊の里として有名な、旧芦品郡新市町金丸（現在は福山市新市町金丸）にあります。お寺の境内には樹齢130年とも言われる大きな銀杏の木が2本あり、梅雨の間の青空に緑豊かな葉っぱを輝かせていました。思わず「秋になったら大変」と思うのは私だけではないはずです。今回は同じ組内という事もあり、リラックスムードの中、お話を伺いました。（聞き手＝立神多恵香委員、長裕美委員、写真＝山下瑞円委員）

伝灯奉告法要がご縁で

Q こんにちは、よろしくお願います。ご住職さんは九州からご養子にいられたと伺っています。が、お二人のなれそめから教えてください。

A 住職との出会いは、本願寺第24代即如門主伝灯奉告法要がご縁です。当時住職は大学を卒業し、京都のお寺で法務をしながら法要のお手伝いをしていて、私は中央仏教学院の研究科に通いながら、法要の隣接部という部署で参拝にいられた方の接待をしていました。

Q ではそこでお互い良いなと思われてお付き合いされたのですか。

A と言うより、同じ部署で働く方から紹介されたのが出会いですね。

Q そうですか。では住職さんのどこが魅力でしたか。

A 最初は恋愛感情というより

も、うちのお寺を継いでくれる人としてどうか、という事を考えました。亡くなった私の父は5人兄弟の5番目で自分がお寺を継ぐとは思っていなかったのに、戦争や色んな事で住職になりました。やりたい事も諦めなければならず、なかなかお寺の事に熱心に取り組めなかったようです。それにとっても頑固な人でしたから、その父と上手くやってくれるか、ご門徒の皆さんとお付き合いの出来る人か、という事が第一条件でした。それとこの地域は昔からお酒を良く飲む所で大変だったので、お付き合いの程度には飲めるけど、沢山は飲まない人、というのも大事な条件でした。

Q では、自分の気持ちよりお寺の事を第一に考えられたのですか。

A 最初はそうですが、やはり住職の人として温厚なところや、ふんわりと包み込んでくれるような雰囲気や安心感を覚えてそこに惹かれました。

Q では、今のご住職で大正解でしたね。

A そうですね。養子に来て、本当にすぐに地域や組内のお寺さ



んになじんできて、道を歩いていても声を掛けられるのは、私より住職の方が多くくらいでした。食べる物の好みも私より母と似ていたので、中には本当の親子に間違われて、私の方が「奥さんどちらから来られました」と聞かれる事もあったくらいです。

なつかしい「中仏」生活

Q 先程中仏に行かれたという話がありました。やはり跡取りとして勉強を、ということで行かれたのですか。

A いいえ。私は2人姉妹の次女だったので、両親も私もお寺を継ぐ気はなかったのですが、姉がお嫁に行ってしまったので、急に両親や門徒さんからプレッシャーがかかり中央仏教学院に入学しました。最初は初めての事ばかりで、足は痛いし、回りのみんなの一生懸命さについていけずイヤでたまらなかったのですが、だんだんお寺に対する考えが変わってきて後を継ぐという決心ができました。研究科になってからは法話の授業が難しく、聞法する機会もなかなか無かったので、何ヶ月か毎日総会所に通ってお聴聞させていた

門徒さんとの密なつながりが有難い

きました。他にもサークルでお華を習ったり、角坊でお茶を習ったり、中仏時代は充実していました。

Q すごい真面目でしたね。私の中仏時代とは大違いです。

A 確かにあのころは我ながら真面目だったと思います。

母の手まわしに気づく

Q 昨年、前坊守さんが亡くられて大変だったと思いますがいかがでしょうか。

A 昨年母が体調を壊して亡くなった時は、本当に何をどうすれば良いのか解らず呆然としてしまいました。でもそんな時、こちらが何も言わなくてもすぐに門徒の方がかけつけて声を掛けてくれたり、色んな手配をして下さったりして助かりました。本堂に雷が落ちて瓦が壊れた時も見に来ていただいて、つくづくお寺と門徒さんの関係が密でありがたいなと、感じました。それも父や母が築いてきてくれたおかげだと感謝しています。他にも後になって気づいた事と言えば、私の目から見て、ここ何年か母がとりわけ何かをして

いる様にも見えなかったのに、いざ1人になってお寺を切り盛りするようになってみると、色んな面で母が手まわししてくれていて助かっていたのだな。と今更ながら気づかされました。

自主的な行動に支えられて

Q そうですか。確かに親のありがたさは後になって初めて気づくのかもしれませんね。では次にお寺の行事について教えて下さい。

A お正月の修正会・花祭り・お盆・報恩講・除夜会・初参式後は毎月の仏婦例会や年2回のおみぎなどですかね。婦人会の活動は皆さん自主的に計画をたてられてお楽しみ会をしたりお斎のお手伝いをしていたりしています。あとは、毎月12日に気づきの方がお掃除に来て下さって助かっています。

Q ありがたいですね。境内の銀杏の落ち葉を掃除するのは大変だろうと思っていました。

A 銀杏の木は、近所の方が拾って加工してくれたり、最近で



は福祉施設の方が来られてバザーに出したりされています。

Q そうやって地域の方との繋がりも出来ていいですね。

A そうですね。私は家族の理解もあって、民生委員の主任児童委員を14年間させていたたいんです。そのお陰でいろんな地域の方々や、子どものお母さん達と繋がりができて、そのご縁でまた次の方へと広がって、その人達がいざと言う時に力になって下さった情報を下さったりと、本当に良いお付き合いが出来ています。今

はそこで出会った人たちとボランティアで、地域の交流館へいってお年寄りの方々とおしゃべりをしたり、お掃除をしたり、牛乳パックで椅子作りをしたりと、楽しんでいます。

Q それは良い人間関係ができていますね。では最後に、これからの抱負を聞かせて下さい。

養子を迎え次代へ

A 娘が2人いるのですが、上の子は東京の仕事を辞めてご本山で仕事をさせていただくように

なったので、新市との距離が近くなりました。下の子は学校を卒業して家に帰ってきて秋からは中仏の通信で勉強させていただこうかと、話しているところです。どちらかが養子さんを迎えてくれて、お寺を次の代につなげていくまでお寺を護って行く事が一番の願いです。

Q 本当にお互いもう少しですね。今日はありがとうございました。

投 寄

備龍会震災支援活動レポート

龍会(脇本寿真会長)では、度重なる現地担当者とのやりとりを経て、今回台所用品を中心に支援物資の提供を呼びかけた。教区内の寺院や仏婦会員等の協力をあお

ぎ、支援物資が続々と集められた。物資は、北部は世羅組照光寺(脇本寿真住職)、南部は深津組光善寺(荏谷友之住職)へと集められた。「全品新品での提供を」との依頼に、当初実現を懸念する声も聞かれたが、山積みの物資が集め

られた。物資は仕分けされ、積み込みを終えてみると、箱形4トン大型トラックの天井まで達する大量のものであった。

5月11日早朝、多くの人たちの思いを胸に、トラックとは別に乗用車で、宮城県へ向け出発。目的は現地対策活動の拠点の一つとなつている、仙台別院訪問と、特に被害甚大とされた石巻市での荷降し、及び現地視察。折り悪く季節外れの台風1号が上陸し、降



【取材を終えて】

同じ組内でいつもお会いしているにも関わらず、初めて聞かせて頂くことが沢山あって、あらためて、坊主さんを知る良い機会をいただきました。皆さんも周りを見渡せば、知っているつもりの人たちでも新たな発見があつて、そこから素敵な出会いがあるかもしれませんよ。いつもよりちょっと踏み込んだ話をしてみては如何でしょうか。

津波に吞まれる海辺の街、逃げまどう人々。マッチのように流されていく車、車、車……。悲鳴に似た心の声を上げながら、また握りしめたこぶしに汗を感じながら、その衝撃映像に見入った。

今、私たちに何が出来るか、備



▲高田輪番へ支援金贈呈



▲世羅組照光寺本堂



▼石巻市総合運動公園にて



◀瓦礫の石巻沿岸



▲深津組光善寺本堂



▶荷物積み込み
翌日仙台へ

りしきる雨の中を山陽道から北陸道を経て、東北道を北上。総行程1300km、実に13時間におよぶ旅であった。仙台別院到着は午後7時半。満開の夜桜と、高田英彦の温かい笑顔が印象的であった。翌日、高田輪番に支援金を手渡し、タオル、夏布団等の荷降ろしを行った。午後からは、現在自衛隊震災対策キャンプ地となっている石巻市総合運動公園にて残りの物資を降ろした。

石巻沿岸は「焼け野原…」戦争を知らない世代といわれた我々が、その悲惨さを想像するにあまりある光景が目の前に広がった。しかも、それは火によるものではなく、津波の被害なのだ。本願寺派称法寺境内には、親鸞聖人像がなぎ倒されたまま転がっている。遠くに見えるのは、石油流出で火災にあった小学校であろう。4階部分までが黒く火の跡が残る。

瓦礫の山の間に立って、津波がきた海をながめていた。思わず「我々は何てちつぽけで無力なんだろうか」とつぶやいた。瓦礫の谷間に動いている巨大な重機が小さく見える。

前夜の仙台市内では、復興対策支援者などの出入りで「復興バブル」ともいえるような経済活性化が起きていると聞いた。しかし、この海辺の街の惨状はどうだ。押しつぶされた車や崩れ落ちた民家の軒下に「搜索済」のステッカーが貼られている。このステッカーの真意を考えると胸が締め付けられる。昨夜「震災から二カ月がたちました。震災直後は、至る所に遺体が転がっていました」と聞いた言葉がよみがえる。

激しい雨の中、帰路について我々に、カーラジオから「地域と一体となって復興を目指す」「風評被害に負けるな。原発に負けるな。故郷を守れ。子どもたちを守れ」の声が響く。

津波は甚大な被害とともに、私たちが他とのつながり無しには生きて行けない事を教えてくれた。滞在した期間はわずかであったが、多くの人々の思いの詰まった物資は確かに届けられた。

ご協力いただいた方々に紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

備龍会

& 活動情報

News

継続した支援を

【災害対策委員会】去る

6月24日、東日本大震災発生から2回目となる教区災害対策委員会が開かれた。1回目では教区より500万円の義援金の送金を取り決めたが、今回は人的活動(主に災害ボランティアセンターでの活動経費)、並びに物資提供(物資を送った場合の送料)に対しての教区支援を取り決めた。詳細については、近く全寺院へ向けて案内がされる。今後、委員会では長期的な視野にたって、継続した支援をおこなっていく方針だ。

好評な「ぬりえ」継続へ

【キッズサンガ】今年度の活動方向などを確認し合う第8回サポーター連絡協議会が4月19日、本願寺備後教堂で行われた。この協議会はキッズサンガ推進委員会(小島照行・委員長)が開催しているもので、今回はこれまでの各組におけるキッズサンガの取り組み状況を確認し、今後の方向性を模索

するのが主な内容。小島委員長があらためてキッズサンガ発足時の願いや今後の方向性などについて語り問題提起。このあと、各組の現状を報告しあい、問題点など探った。こうした意見の中で好評だったのが「ぬりえ」で継続して欲しいという意見が多くあり、委員会としてもその方向性を確認した。また、各組におけるサポーターの位置づけについても意見が交わされた。

283名が参加し総会と研修会

【仏婦連盟】4月26日、仏婦連

盟総会・幹部研修会が備後教堂にて開催された。本年度は大遠忌法要勤修のため総連盟総会は文書発送をもって代わることとなったが、教区仏婦連盟では例年通り総会・幹部研修会を行い、283名が参加した。総会では昨年度活動報告及び本年度活動計画が承認され、午後の幹部研修会では、総連盟講師の貴島信行師に出向いただき「お念仏の人生」と題してご法話をいただいた。

ダーナ活動を全会員へ

【寺婦連盟】6月7日、備後教

堂において寺婦連盟による総会並びに研修会が催された。今回の総会では、大震災における支援の一つとして、従前より総会の折に行なわれていたダーナ活動を、もっとと広く全会員へ向けてお願いし、それを義援金に充てていくことに決定した。長期的支援を必要とする被災地へ向けて連盟を挙げて取り組んでいく。午後からの研修会の講師は清胤弘英住職(安芸教区山県太田組正覚寺)。聴聞を深めた。



▲寺婦連盟研修会の様子

教区月報

4月	3日	5日	6日	7日	8日	8日	10日	11日	13日	19日	20日	21日	22日	24日	26日	27日	28日	28日	5月	6日	11日	12日	16日	
世羅組お待ち受け法要	（世羅組照明寺）	仏壮連盟監査	世界仏婦大会専従員会議	（本山）	基推広報伝道部会	大遠忌法要開始式並びに 東日本大震災追悼法要	（本山）	勤式練習会	仏壮連盟総会・研修会	教堂常例法座	仏婦連盟常任委員会	（ビハーラ花の里病院）	第8回サポーター協議会	門徒推進員世話人会	基推同朋部会	保育連盟全体協議会	若婦人専門委員会	仏婦連盟総会・幹部研修会	基推門信徒部会	少年連盟役員会	東日本大震災四十九日法要	ビハーラ備後役員会	寺婦連盟若婦人研修会	（御調東組照源寺）

【広報伝道】 6月19日（日）備後教区お寺のつどい」が開催された。午前10時教堂に集まったのは20名の寺院子弟。スタツプを合わせ約30名が、本堂にてお勤め、参加者紹介の後、松井一昭（深津組慶満寺）さんより手塚治虫のエピソード等の話を聞いた。そして一文字コロナワールドへ移動しボウリング大会を行った後、「ブツダ」を鑑賞した。

A black and white photograph of three young children standing in a row. The child on the left is a boy holding a large, dark balloon with a star pattern. The child in the middle is a girl holding a light-colored balloon. The child on the right is a girl holding a dark balloon with a star pattern. They are all looking towards the camera.



をいいただき、開催に至った。
バスの中で初対面とは思えないくら
いにはしゃいでいる子どもたち
を見てみると、子どもたちが手を
つなぎ合える環境を残していくこ
とが、我々「お寺の大人たち」に
課せられた責務だと認識した。

【布教団】三年に一度、全国の布教使が上山して開かれる第13回全国布教使大会が6月29日と30日の二日間、本山と平安高校などを会場に開催された。大会には全国から約500人が参加。教区布教団からはバスを貸し切り総勢で30人が団体参加した。特に今大会は教区布教団の山下義円副団長が布

教団連合の総団長補佐の任にあることから、今大会の実行委員長を務めた。特に山下実行委員長は今後の布教団を担う青年布教使の活躍に期待し、青年布教使をスタッフに加えて開催。備後教区からは田井智彦・青年代表が実行委員として加入。また、長谷川憲章・団員が大会に先立って聞法会館で記念布教を行った。大会のメインであるパネルディスカッションでは季平博昭・教区団員がパネラーに

教区布教団の総会と研修会（6月20日）、夏期布教大会（同21日）が本願寺備後教堂で開かれた。講師は共に矢田了章・龍谷大学名誉教授を講師に開催した。布教大会で午前と午後4人の団員が30分づつの布教を行った。

【寺族青年】6月23日、倉敷マスカットスタジアムを会場に「中国四国寺族青年野球大会」が開催され寺族青年たちが熱い戦いを繰り広げた。結果は優勝が安芸教区、準優勝は山陰教区、3位が備後教区の結果であった。梅雨で天候が心配される中、どの試合も白熱した試合となり、次年度担当の山陰教区へとバトンタッチした。

22日	22日	21日	21日	20日	19日	14日	13日	11日	10日	9日	8日	7日	6日	3日	2日	2日	2日	1日	1日	6月	31日	28日	25日	22日	19日
中四国寺族青年軟式野球大会 (本山 23日まで)	中央基推委員会	中央基推常任委員会(本山)	夏期布教大会	教務所長会(本山) 布教団総会・研修会	お寺の子どものつどい (コロナワールド福山)	矯正教化教区支部総会(広島 (福山人権交流センター)	解放同盟福山市協定期大会	仏婦連盟常任委員会 教堂常例法座	少年指導者のつどい団参 (本山 10日まで)	門徒総代会世話人会	寺婦連盟総会・研修会	同朋三者懇話会(備後)	組画常任委員会	基推門信徒部会	門徒推進員世話人会 (山陰 3日まで)	中四国議長・所長会議	寺婦連盟監査	キッズサンガ推進委員会	(本山 6月1日まで)	相談員中央研修会 (本山 6月1日まで)	若婦人専門委員会	寺婦連盟役員会	仏壯連盟役員会	勤式練習会	(本願寺 17日まで)

今後の予定

7月

- 1日 ビハーラ備後総会・公開講座
 4日 連研のための研究会
 4日 キッズサンガ推進委員会
 5日 教区ビハーラ代表者会(本山)
 7日 基推広報伝道部会
 8日 常備会
 11日 教堂常例法座
 12日 全国議長・組長会長会議(本山)
 12日 門徒推進員代表者協議会
 (本山 13日まで)
 13日 キッズサンガ公開講座
 (御調西組光徳寺)
 13日 少年連盟指導者研修会・総会
 15日 勤式練習会
 21日 組長会
 22日 門徒推進員のつどい
 23日 全国保育大会
 (本山 24日まで)
 24日 岡山同宗連研修会

27日 子どものつどい教区団参
 (本山 28日まで)

8月

- 2日 青年布教大会(比婆組西念寺)
 6日 全国真宗青年のつどい
 (本山 7日まで)
 11日 教堂常例法座
 23日 仏婦連盟常任委員会
 24日 布教団研修旅行
 (26日まで)

28日 仏壯連盟夏期研修会
 (三次組照円寺)

29日 基推広報伝道部会

9月

3日 全国仏壯大会団参
 (本山 4日まで)

5日 基推門信徒部会

11日 教堂常例法座

22日 勤式練習会

28日 全国寺青軟式野球大会
 (京都 29日)

30日 平和のつどい
 (三次 CC プラザ予定)

予報・インフォメーション 研修会、行事案内

第16回平和のつどい

日時 9月30日(金)
 13時～16時頃

会場 三次 CC プラザ(予定)
 講師 ココラットさん
 (ビルマ政治難民)

今回の平和のつどいは、三次組、比婆組、三谿組担当により開催されます。

「青年布教使の会」による
青年布教大会のご案内

日時 8月2日(火)
 9時半～16時

会場 比婆組西念寺

出講者(敬称略)

・朝席:島津恵航(世羅組正満寺)、
 三條義見(鴨川北組円福寺)、田
 井智彦青年代表(備中里組蓮乗寺)
 ・昼席:大塚裕玄(奥組泉瀧寺)、
 福岡玄猷(三次組源光寺)、山下
 義円副団長(奥組浄福寺)

ご参詣いただきますようご案内
 申し上げます。

教堂参与の増員について

各寺院より1名以上の教堂参与
 をお願いいたしておりますが、現
 在58名と寂しい状態が続いてお
 ります。備後教区の拠点となる聞
 法道場の護持発展に何卒ご協力の
 程よろしくお願い申し上げます。
 申込み詳細については教務所まで
 ご連絡下さい。(参与会)

29日 勤式練習会
 (本山 30日まで)
 29日 全国布教使大会団参
 (本山 30日まで)
 28日 岡山同宗連研修会(金光教)
 28日 大遠忌団参会議(本山)
 28日 広島同宗連総会(安芸)
 27日 教区報専門委員会
 (深津組法真寺)
 26日 お寺で子育てセミナー
 24日 組画全体会
 24日 災害対策委員会
 24日 教堂責役・総代会
 (倉敷 23日まで)

得度許可

おめでとうございます
ございます

備中里組 高運寺

〔敬称略〕

塩田 信成(信成)

(平成23年2月27日付)

教師授与

おめでとうございます
ございます

〔敬称略〕

深津組 正善寺

藤井 教証(教証)

沼隈南組 光照寺

季平 祐也(即祐)

三次組 浄円寺

宮 祐介(祐浄)

御調西組 順勝寺

田坂 礼人(礼人)

(平成23年3月30日付)

備中里組 正専寺

小滝 時枝(時慧)

世羅組 了安寺

阿部 司苑(司苑)

(平成23年4月28日付)

敬 弔

お悔やみ申し
上げます

〔敬称略〕

世羅組 善正寺

住 職 薬師寺

秀昭

(3月12日寂)

沼隈西組 成願寺

前坊守 森本美智子

(3月13日寂)

御調東組 浄泉寺

衆 徒 遊亀山

徳子

(3月18日寂)

三次組 善照寺

前住職 安部

大恵

(4月1日寂)

神石組 光徳寺

前住職 梶 之則

(5月17日寂)

世羅組 善正寺

坊 守 薬師寺

利枝

(5月30日寂)

比婆組 明正寺

前住職 長上

徹昭

(6月11日寂)

三次組 蓮光寺

前坊守 桑名

ノブエ

(6月23日寂)

教堂常例法座出講者

(敬称略)

7月 深水顕真

(三次組専正寺)

8月 馬屋原晃准

(神石組教西寺)

9月 平山智正

(深津組光円寺)

10月 長谷川憲章

(三谿組善徳寺)

11月 藤井義英

(比婆組西教寺)

12月 箱田義信

(沼隈南組西光寺)

●教堂休館日

8月12日(金) 16日(火)

●備後教堂夏期休館日をお知らせいたします。

●在家免物の取り次ぎについて
教務所にて在家免物の取り次ぎを行っています。本山からお寺、ご門徒宅へ直接届くよう手配をさせていただきます。教務所(藤井)へお問い合わせください。

「お坊さんステーション」はインターネットでも聞くことができます。

インターネットでの視聴方法

■ <http://fm777.co.jp/pc/index.html>

■ 上記ホームページの左上「ウェブラジオ」をクリックしてください。 ※必ず放送時間をご確認ください。



Radio BINGO

お坊さんステーション

FMびんご 77.7MHz

月曜日 午後6時10分頃
木曜日



読んで聞く法話シリーズ②
布教団



一昨年度より布教団にて進めております「大遠忌プロジェクト」の一環として、読んで聞く法話シリーズ第2弾「お寺参り」を制作、発行することとなりました。お寺参りを奨励するものとして、できるだけわかりやすい表現を用いて読みやすいものとして仕上げていきます。頒布価格は1部5円(200部からの注文)です。ご活用いただきま

すようご案内申し上げます。



大遠忌法要より

九具足で荘厳された前卓(上)と供物(左)



「各法人からの県庁への書類提出期限は7月31日です」

▼広島県内の寺院

〒730-0011 広島市中区基町 10-52 広島県庁内 環境県民局 学事課
電話 082-228-2111

▼岡山県内の寺院

〒700-8570 岡山市内山下 2-4-6 岡山県庁内 総務部 総務学事課
電話 086-224-2111

※未提出の場合、過料処罰金が10万円です。ご注意ください！



世の中には、いくら理論を重ねても、実際に肌で感じなければわからない事がある▽「がれきの山はすごいですよ。今やTVやインターネットの時代ですから、現地

の状況を映像で見て、心構えが出来るんです。物凄かったのは臭いです。がれきから漂う、何とも云えない悪臭。腐敗臭と潮の匂いが混じった様な…。あとは、街全体をおおう、ほこりというか砂。あれには参りました。僕は仕事で2週間の滞在でしたけど、正直、しばらくは思い出したくないです。あの臭いやほこりつぽさは、たとえインターネットでも伝えられないですから。▽たまたま、居酒屋で隣り合わせた作業着姿の青年が被災地より戻ったところだと聞こえて、「僕たちも来週、支援の為に現地入りを計画している者です」といつて、話を聞かせてもらった▽正直、その時までは、備龍会の支援活動に参加しつつも、現地行きまでは考えていなかった私である。しかし、インターネットでも伝えられない何かを感じるためには実際に足を運ぶしかないと感じがされた▽もちろん充分とはいえない支援であろう。また、長期的な体制は必至である。しかし、私たちは確かに現地から何かを持ち帰った。いろんな思いを込めて、活動に奔走してくださった多くの同朋に感謝の気持ちとともにお届けしたい。(K・M)